

## 第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策

### （3）国際競技力の向上

#### 【政策目標】

我が国のアスリートが国際競技大会等において優れた成績を挙げることを目標としてひたむきに努力し、試合で躍動する姿は、国民の誇りや喜び、感動につながり、国民のスポーツの関心を高めるものであり、これを通じて国に活力をもたらすものであることから、（公財）日本オリンピック委員会（JOC）及び（公財）日本パラスポーツ協会日本パラリンピック委員会（JPC）と連携し、各NFが行う競技力向上を支援する。

そうした取組を通じ、夏季及び冬季それぞれのオリ・パラ競技大会並びに各競技の世界選手権等を含む主要国際大会において、過去最高水準の金メダル獲得数、メダル獲得総数、入賞数及びメダル獲得競技数等の実現を図る。

#### ① 中長期の強化戦略に基づく競技力向上を支援するシステムの確立

##### [現状]

- ・ NFが策定する中長期の強化戦略プランの実効化支援等の従前の取組は一定の成果をあげており、今後も、必要な改善を加えながら取組を継続することが必要である。
- ・ 選手強化活動全体の強化責任者及びワールドクラスのコーチ等の育成・配置がまだ十分に進んでいないNFがあり、コーチ等の育成・配置も更なる充実が求められる。
- ・ 選手強化活動や競技普及等において、オリ・パラのNFが連携した取組が必ずしも十分にできているとはいえず、競技特性を踏まえ更に進める必要がある。
- ・ 女性アスリートが健康にハイパフォーマンススポーツを継続するため、各ライフステージに応じた必要な支援や環境づくり、選手自身や関係者への意識啓発を更に進める必要がある。

##### [今後の施策目標]

- ✓ NFが策定する中長期の強化戦略プランの実効化を継続的に支援するほか、NFが選手強化活動等を自立して進めていくための組織基盤の強化、これからの選手強化活動に必要な強化責任者や指導者・スタッフ等の人材の育成・配置、女性アスリートの活躍のための環境整備等に取り組み、オリ・パラのNFの更なる連携を促進しながら、国際競技力向上の基盤を確立する。

## [具体的施策]

- ア JSC、JOC及びJPCは、各NFによる中長期の強化戦略プランの実効化を支援するため、引き続き、各NFとの連携による協働コンサルテーション<sup>40</sup>の実施など、PDCAサイクルの各段階での支援等に協働で取り組む。また、国は、この取組における各NFの評価結果については、引き続き、各種事業の資金配分に活用する。
- イ 国は、NFが行う日常的・継続的な選手強化活動に対する支援を行うに当たって、次回のオリ・パラ大会に向けて重点支援競技を選定し、配分額の加算や、スポーツ医・科学、情報等による専門的かつ高度な支援を継続的に実施する。
- ウ JOC、JPC及びNFは、従前の取組の成果を踏まえつつ、選手強化活動全体の強化責任者、海外から招へいた人材を含む優秀な指導者・スタッフ等の育成・配置を進める。国としても、これらの取組を支援する。
- エ 国は、各競技における国際的なルール作りへの積極的な参画や、国際競技大会における我が国のアスリートの競技に関する判定等への適切な対応が行えるよう、IF、アジア競技連盟（AF）等の日本人役員の増加・再選に向けたNFの取組、JOC等における国際審判員の養成、JOC、JPC及びNF等において国際的な折衝が十分行える人材の育成・配置等の支援に取り組む。
- オ 国は、各NFの実情を踏まえつつ、NFが自立して選手強化活動を始めた様々な活動を進めていくための組織基盤の確立・強化に向けた取組を支援することで、NFの持続的かつ自立的な運営を促進する。
- カ 国は、選手強化活動や競技大会の開催、競技の普及、企業等との協働等において、オリ・パラのNFが、連携した取組を進めるよう促す。
- キ 国及びJSCは、女性アスリートが健康に競技を継続できる環境の整備のため、従前の取組により得られた成果や知見を活用し、実践における課題解決に取り組むとともに、相談体制の充実や出産・育児等へのサポートを含めた支援体制の整備を行う。あわせて、指導者についても、NF等における女性エリートコーチの育成・配置を進めるための取組を実施する。また、女性アスリートの健康課題<sup>41</sup>等に関する指導者やアスリート自身の理解促進や予防及び早期発見に向けた取組等、NFや地域における女性アスリートへの支援体制の充実に取り組む。
- ク JSCは、スポーツ振興基金助成事業においてアスリートに対する助成を行うこと等により、競技活動に専念した選手生活の継続を奨励し、競技水準の向上を支える環境を整備する。
- ケ 国は、JSC、JOC、JPC、JSPO、NF、民間事業者、大学等と連携して、

<sup>40</sup> JSC、JOC及びJPCにより構成される協働チームと各NFの強化責任者が、強化戦略プランの目標達成に向けた進捗状況等を確認の上、課題解決のための意見交換や情報提供等を行うもの。

<sup>41</sup> 代表的なものとして、過度なトレーニングにより引き起こされる、利用可能エネルギー不足、無月経、骨粗しょう症が女性アスリートの三主徴と呼ばれている。

クロスアポイントメント制度<sup>42</sup>等の活用も含めた組織間の人材交流の促進や、ナショナルコーチ等の設置に係る支援等により、指導者・スタッフ等が選手強化活動に専念し、又は、研究者がスポーツ医・科学等に関するより実践的な研究を行うことができる環境の整備を進める。

## ② アスリート育成パスウェイの構築

### [現状]

- ・ アスリートの発掘・育成・強化に関しては、国、地方公共団体、競技団体等が様々な取組を行っている。これらの取組を有機的に連携させ、アスリートが競技開始からトップレベルに至るまでの道筋（アスリート育成パスウェイ）の整備を進める必要がある。
- ・ アスリートの発掘については、オリンピック競技は、育成・強化につながるような発掘となるよう、改善を図ることが必要である。他方、パラリンピック競技においては、これまで実施してきたジャパン・ライジング・スタープロジェクト<sup>43</sup>を通じ、短期間で国際大会等へ出場する選手が発掘されるなど、その効果は高いことから、継続的な改善を図りつつ、引き続き実施していくことが必要である。

### [今後の施策目標]

- ✓ **NFにおけるアスリート育成パスウェイの構築等を通じた、中長期の戦略的な発掘・育成・強化の取組により、世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出する。**

### [具体的施策]

- ア 国及びJSCは、アスリートの戦略的な発掘・育成・強化に向けて、地方公共団体、競技団体、JSPO（各都道府県協会を含む。）、（公財）日本パラスポーツ協会（JPSSA）（各都道府県協会を含む。）、その他関係機関等による取組の有機的な連携を図る。特に、「日本版FTEM<sup>44</sup>」等も活用しながら、各NFが、発掘から育成・強化までを一貫して行うアスリート育成パスウェイを構築することを支援する。その際、トップアスリートの引退後のキャリアにも十分配慮する。
- イ 国及びJSCは、地方公共団体や競技団体が、アスリートの適性や競技特性を考慮した将来有望なアスリートの発掘を行い、これが育成・強化と一貫した取組となるよう、支援する。特に、パラリンピック競技については、タレント発掘のための取組の強化が、

<sup>42</sup> 出向元機関と出向先機関の間で、出向に係る取決め（協定等）の下、当該取決めに基づき労働者が2つ以上の機関と労働契約を締結し、双方の業務について各機関において求められる役割に応じて従事比率に基づき就労することを可能にする制度。

<sup>43</sup> 関係団体と連携して、全国から次世代の有望なアスリートを発掘するプロジェクト。

<sup>44</sup> アスリートの育成過程を「Foundation、Talent、Elite、Mastery」に分けたオーストラリアのフレームワークを基に、日本の競技スポーツの基盤を踏まえたアスリート育成の在り方を根拠に基づいて段階的に見える化した枠組みとしてJSCが開発したものの。

競技の裾野を広げ、将来有望な人材がスポーツを実施することにもつながることから、更に幅広い層へのアプローチが可能となるよう取り組む。

ウ 国及びJ S Cは、引き続きNFと連携し、将来メダル獲得の可能性が高い競技や有望アスリートに対して、スポーツ医・科学、情報等の活用や海外派遣等を通じて、集中的な育成・強化への支援を実施する。

エ 国、J S P O及び開催地の都道府県は、国民体育大会（国民スポーツ大会）が、将来有望なアスリートの発掘・育成を含め、競技力向上に資するものであることから、三者が一体となって実施するとともに、「3巡目」に向けた大会の在り方等について検討を進める。

### ③ スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実

#### [現状]

- ・ アスリート支援を充実するため、H P S Cの機能を強化し、国際競技力向上を支える基盤を整備するほか、メダル獲得の可能性が高い競技に対しては、スポーツ医・科学、情報等の各分野のスタッフによる専門的かつ高度な支援を実施してきたが、国際的にもますます革新的な技術を活用したデータ収集・分析等が進む中で、アスリート支援の一層の高度化・充実が求められる。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大によりNFの選手強化活動が制約を受け、これに対応した経験も踏まえ、安定して継続的に選手強化活動ができる環境整備が必要である。

#### [今後の施策目標]

- ✓ スポーツ医・科学等の分野の研究を推進し、得られた知見の活用により、H P S Cや地域の関係機関におけるアスリートへのスポーツ医・科学、情報等によるサポートの一層の充実を図る。あわせて、デジタル技術の活用等により、感染症等による制約を受ける状況にあっても継続的な選手強化活動を行うことができる環境を整備する。

#### [具体的施策]

ア 国及びJ S Cは、トップアスリートの育成・強化の観点からスポーツ医・科学、情報等による研究・支援を行う中核的な拠点として、ハイパフォーマンススポーツに関する情報収集・データ分析の充実、パラリンピック競技の用具を始めとした競技用具等に関する研究の実施など、H P S Cの機能強化を進める。その際、デジタル技術の活用など、新型コロナウイルスの影響下の経験を踏まえた継続的な選手強化活動を行うことができる環境の整備を進めることに留意する。これらを通じて、NFによるスポーツ医・科学、情報等に基づく選手強化活動を促進する。

イ 国及びJ S Cは、強化合宿や競技大会におけるスポーツ医・科学、情報等を活用した

トップアスリートへの支援、大規模国際競技大会におけるトップアスリートやコーチ等の競技直前の準備に必要な機能の提供により、トップアスリートに対して多面的で専門的かつ高度な支援を実施する。

ウ 国及びJ S Cは、アスリートに対する誹<sup>ひぼう</sup>謗中傷等に関する昨今の状況を踏まえ、アスリートがメンタルヘルスを向上させ、大舞台で本来の実力を発揮できるよう、メンタルトレーニングの普及啓発を含む、心理面のサポートの充実を図る。

エ 国は、N T C中核拠点のみでは対応が困難な冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技等については、従来の拠点設置の考え方にとどまることなく、海外における活動の在り方を含め、あらゆる可能性の中で検討を進める。あわせて、N T C競技別強化拠点においては、N Fが策定する強化戦略プランに基づいた選手強化活動を実施することはもとより、都道府県競技団体(P F)等が行う地域における競技力向上の取組にも資するよう、機能強化ディレクターの配置拡充等を通じ、H P S C、地域のスポーツ医・科学センター、大学等との連携を強化し、スポーツ医・科学、情報等によるサポート等の充実を図る。

オ 国及びJ S Cは、大学等とH P S Cとの連携による先端的なスポーツ医・科学研究を推進するとともに、研究で得られた知見を実践において活用(実装化)できるよう取り組む。あわせて、スポーツ医・科学等の分野の若手研究者の育成を進めるため、連携協定の締結、クロスアポイントメントの実施、教育プログラムの開発、H P S Cの場を活用した実践機会の提供等の大学等とH P S Cとの一層の連携強化を図る。

カ 国は、パラリンピック競技における国際競技力向上に当たって、障害に応じた選手の適性判断や適切な助言、より公平なクラス分けの国際基準作りへの積極的な参画が重要であることから、クラス分けに係る調査研究や人材育成・配置を支援する。

#### ④ 地域における競技力向上を支える体制の構築

##### [現状]

- ・ ハイパフォーマンススポーツに関するH P S C等の知見を、全国のアスリートの発掘・育成・強化の実践において活用できるよう、地域に還元していくことが必要である。
- ・ 世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出するためには、地域における競技力向上を支える体制の構築を進め、これをN Fによるアスリートの育成・強化につなげる仕組みづくりが必要である。

##### [今後の施策目標]

- ✓ H P S C、N T C競技別強化拠点、地域のスポーツ医・科学センターや大学等の連携を更に強化し、H P S C等に蓄積された知見の地域・社会への還元を図るとともに、地域における競技力向上を支える体制を整備する。

[具体的施策]

ア 国及びJSCは、地域のアスリート育成において、スポーツ医・科学、情報等によるサポートを受けられる体制を整備するため、NTC競技別強化拠点や地域のスポーツ医・科学センター、大学等とのネットワークを構築し、地域におけるスポーツ医・科学、情報等によるサポートを担う人材の育成を進める。

イ 国及びJSCは、持続可能な国際競技力向上に資するよう、PFを含む地域のスポーツ団体、地方公共団体、企業、地域のスポーツ医・科学センター、大学等が連携した、地域における競技力向上を支える体制の構築を進め、これをNFにおける選手強化活動に連続させる、地域と一体となったアスリート育成のための仕組みづくりに取り組む。

※本項にも位置付けられる既出施策：(3)「③ スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実」エ(P.42)

【再掲部分引用】：：

(3) 国際競技力の向上

③ スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の充実

[具体的施策]

エ 国は、NTC中核拠点のみでは対応が困難な冬季、海洋・水辺系、屋外系の競技等については、従来の拠点設置の考え方にとどまることなく、海外における活動の在り方を含め、あらゆる可能性の中で検討を進める。あわせて、NTC競技別強化拠点においては、NFが策定する強化戦略プランに基づいた選手強化活動を実施することはもとより、都道府県競技団体(PF)等が行う地域における競技力向上の取組にも資するよう、機能強化ディレクターの配置拡充等を通じ、HPSC、地域のスポーツ医・科学センター、大学等との連携を強化し、スポーツ医・科学、情報等によるサポート等の充実を図る。

：：：